

## 2000年第2回日本学生オリエンテーリング連盟幹事会 議事録

日本学生オリエンテーリング連盟広報部

日時:2000年10月7日15時～

場所:奈良県桜井市初瀬大和屋

出席者:[幹事12名]

井下田哲(幹事長)、池田和香子(副幹事長)、二俣みな子(会計)

岡田寿郎(事業部長)、平沢正紀(事務局長)、吉村浩二(広報部長)

武村譲(北東)、片山裕典(北信越)、高橋ひろみ(関東)

藪田隆俊(東海)、松本学(関西)、竹下利明(中九四)

小林由幸(会計監査)、大井和之(技術委員長)

木俣順(滋賀ICS実行委員会)

### 1. 参加者自己紹介

### 2. 賛助会員名簿の記載事項の決定

前回話し合った賛助会員名簿にて公表する情報のレベルについて続き現状では勤務先、勤務先の電話番号まで載せているがプライバシーの関係上このままでいいのか。理事のデータは来年度から載せる予定。

(意見)

- ・ 勤務先、勤務先の電話番号を非公開にするのは妥当かもしれないが、住所まで非公開にすると名簿としての機能がなくなる。
- ・ 昔は勤務先の住所を載せることに意味もあったが、今は必要ない。
- ・ 欄を公開、非公開の選択性にしてはどうかあまり非公開が多すぎると名簿としても機能が損なわれる。
- ・ 今回は今までどおりでいくが、来年以降どうするべきか賛助会員に直接聞いてみてはどうか、いぶきNO.3にアンケートを載せる。

### 3. 事務局員食費補助について

日本学連事務局員に対して1人1日あたり500円の食費補助を出すというもの。

いままで全員一律で年度末にインカレ補助金を出していたが、より成果報酬的な意味合いを強めるもの。これには最近の事務局の稼働状況の悪さから事務局員のモチベーションを高めようという問題が背景にある。

食費補助によって20万程度の支出が見込まれますが事務局予算内で収まる額であり、事務局長、事務局会計レベルの判断で10月からすでに導入。

(意見)

- ・ 現在東大、早稲田大から事務局員を出しているが、他の大学からも出すべきでは。
- ・ しかし強制してもいいものか。
- ・ 事務局の予算で収まるか。
- ・ 収まっている。

### 4. インターハイから地図の提供について

今回後援申請が来ている全日本高等学校OL選手権大会(以下インターハイ)から、日光霧降の地図を無償で提供してくれないかとの申し入れがあった。過去にもインターハイに学連の地図

を無償提供した前例がある。無償有償,条件なども含めてどうするか話し合う。

[問題点] 併設の参加者分の地図を提供する必要があるか?

(意見)

- ・ 併設の分は提供する必要はない。過去の事例も中高生のみ無償だった。
- ・ 併設の分だけ優勝にすると,余って返却してもらうときに無償の分が優勝の分が区別できないのでは。
- ・ 中高生の分だけ無償提供したときは返却の必要はない(高校生への援助のためだから余った分を練習に使うのは自由)。
- ・ 有効に使われたかどうか報告書の提出を義務づけるべき。

<結論> 中高生の分だけ無償。報告書を提出させる。

[問題点]

インターハイにおいての学連,賛助会員への特典

(意見)

- ・ 加盟員,賛助会員への特典は特に必要ない。
- ・ それより中高生の負担を減らすほうが優先事項。

<結論> 余力があればやってもらうが,強制はしない。中高生への負担を減らすことを第一に考えてもらう。

## 5. 大会後援申請

以下の5大会から後援申請の承認の是非

12月17日 第20回千葉大学オリエンテーリング大会 12/12で承認

1月7日 第21回広島大学オリエンテーリング大会兼広島県オリエンテーリング大会

1月7日 第10回名古屋大学オリエンテーリング大会

(意見)

- ・ なぜ同じ日になったのか?
- ・ それぞれの事情があったがお互いの情報の共有が出来ていなかった。
- ・ 日本学連は同時に2つの大会を後援するというのはどういうことか。

<まとめ> 今回の同日開催では実害はないと思われるが,今後のために地区学連レベルでの情報の共有を進めるべきということで2大会とも12/12で承認

2月18日 第23回早大OC大会 12/12で承認

3月16日~18日 第14回全国高等学校オリエンテーリング選手権大会および一般併設大会  
12/12で承認

## 6. 2000年ユニバーシアード報告

コーチの村越真氏が暫定版の報告書を提出。内容は選手とコーチのレポートをまとめたもの。村越氏より,学連がユニバーに100万円の支援をしている意義についての問題提起があり,それについて意見が出された。

学生にユニバーと学連との関係が理解されていない。実際ユニバーが学生にとって身近なものになっていない。

報告会などをきちんとして,学連合宿等で直接学生の技術向上に貢献できる場を設けるべき。前回の幹事会で挙げられたユニバーをSQUADに任せるという論点について。

ユニバーは学連が担当してほしい。インカレ入賞者とユニバー代表はほとんど重複している日本でユニバーが開催される事は考えられるか。

学生の組織がしっかりしているので将来的にはあることも考えられる。

7. 技術委員会報告(大井)

インカレ、インカレショート実施規則の改正案が配布資料として提出された。内容について幹事から多数指摘あった。

まだ議論の余地があるということで大井氏が技術委員会に持ち帰り、検討後に総会で提案することに。

改正点(案)

- ・ 一部抜粋男子リレーの女子参加を認める。 多数疑問, 反論あり。
- ・ 男子リレーの競技時間を各競技者 50 分に。リレーの地図縮尺 1 万分の 1 でも可。その場合、モデルイベントで 1 万 5 千分の 1 との両方が提供されることが望ましい。
- ・ リレーのタイムオーバーは失格とする。
- ・ パンチングシステムについて要項に記載必要。モデルイベントで使用機会提供が必要。
- ・ 選手登録名簿の変更が 8 週間前までとする。
- ・ モデルイベントで給水コントロールの設置状態を明示。
- ・ 立ち入り禁止表示を「危険」「その他の理由」で区別。地図上のコントロール位置の の大きさの指定。
- ・ 不適用条項については要項 3 に必ず明記。
- ・ 「ゼッケン」を「ナンバーカード」に変更。

8. インカレショート 2000 実行委員会(木保)

来月にせまる。参加者 700 人程度。プログラムを筑波大大会(11 月 29 日)に配布。選手が当日参加できなくなった時に、前日 17 時までには変更を受け付ける。

一般クラスの参加者が選手権クラスの参加者の代走をすることが可能。入村手続きについて ICS 参加者は割引があるのでプログラム記載通りに入村すること。

9. 愛知インカレ実行委員会(阿部)

- ・ 配布資料(報告書)を提出。1.5 次調まで終了。
- ・ 要項 3 を 11 月 11 日の総会で配布予定。公式ホームページを開設することについて幹事の承認が必要。 12 / 12 で承認
- ・ 不適用条項について既に要項 2 に記載されている。  
(注意事項)男子リレー競技時間 50 分に短縮リレーの地図縮尺 1 万分の 1(モデルイベントで 1 万 5 千分の 1 の地図と共に用意)
- ・ パンチングシステムは選手権クラスは Emit を使用。
- ・ アジアから学生を招待(ロシア, 中国, 香港, 韓国)選手権クラスを走らせる予定。
- ・ モデルイベントの地図は三河 OLC 作成「曲り峠」 インカレトレインに隣接注意。

10. 理事会報告

理事不在のため、事前に提出された報告書のみ。

(内容)理事会でインカレショート 2001 実行委員会が承認された。

11. 幹事会報告

1) 幹事長(井下田)

事務局員食費補助制度を実施。

インカレショートエントリー資格を 8 月 31 日までの登録, に一致。

北九州高専の専攻科の学生(放送大学での取得単位により学士取得予定)の加盟認定。分割加盟の申請をしてほしい。北信越学連の放送大学

- 2) 副幹事長(池田)  
技術委員会 ML, ユニバーシアード ML に参加。
- 3) 会計(二俣)  
上半期の決算報告を配布。各部局に会計報告提出をお願いしたい。
- 4) 事業部(岡田)  
後夜祭の開催について早急に場所等を決定したい。
- 5) 事務局(平沢)  
10月に学連名簿を作成。

12. 地区学連報告

- 1) 北東学連(武村)
- 2) 北信越学連(片山)
- 3) 関東学連(高橋)
- 4) 東海学連(藪田)
- 5) 関西学連(松本)
- 6) 中九四学連(竹下)

13. 諸連絡

来月総会までに各幹事は2001年度の後継ぎを決めておく事。

14. 次回幹事会の開催について(井下田)

1月20日(土)に東京近郊で開催。引継ぎ幹事会。